

お天気の良いある日の午後、二人の生徒が校庭で四つ葉のクローバーを見つけたと、大事そうに手のひらにのせた葉っぱを見せてくれました。せっかくなので葉にすることを提案し、図書館の重くて分厚い本を使って押し花にすることにしました。あまり貸し出されることが無さそうな本を選んで挟んだのですが、しばらくの間は誰かが持って行ってしまわないかドキドキでした。その四つ葉のクローバーは無事に回収され、今ごろは二人のもとで幸せを生んでいる頃だと思えます。クローバーを挟んでいたのは『現代英語ことわざ辞典』(833ヶ辞典)の「Great barkers are no biters. よく吠える犬は決して噛まない」と書いてあるページでした。 司書

📖 分厚い本に挑戦! 📖

前述の押し花づくりにちょうど良さそうな分厚い本はたくさんありますが、読むには勇気がいるような厚さの本は、それなりに面白いものが多い気がします。3cm以上の厚みを持つ本を紹介します。

○舞城王太郎／荒木飛呂彦『JORGE JOESTAR』(913.6マ)

作家、舞城王太郎がJOJO愛を込めて書き下ろした、小説版「ジョジョの奇妙な冒険」です。本家のマンガで描かれなかったジョージ・ジョースター2世の冒険を描いたもので、ジョジョファンにおススメできるかどうかは難しいところですが、この厚みを手にすれば原作への敬意が感じられて、これはこれでアリだなと思うはずです。

○WORLD DREAM PROJECT『WE HAVE A DREAM 201カ国 202人の夢×SDGs』(333ワ)

分厚いページのどこから読んでも大丈夫。世界中の人の夢が、鮮やかな写真とともに心に入ってきます。そしてきつと数ページ読み進めたころには、勇気やアイデアや希望がわいてくる本です。

○ダニエル・ヤーギン『新しい世界の資源地図』(501ヤ)

我が家の電気代やガス代が高くてびっくりしますが、その理由がウクライナでの戦争だったり、天然ガスの高騰だったり、世界の問題が一家のお財布事情にこんなにも関わってくるということに驚いています。世界の資源エネルギー問題・気候変動・国家の衝突などについて、地政学の第一人者がプーチンやフセインなどの衝撃のエピソードを交え解説しています。

○佐藤優『十五の夏(上・下)』(293サ)

50年近く前、高校1年生の夏休みに著者が40日をかけてソ連(ロシアではなく!)や東欧の共産圏の国々を一人で旅した記録です。分厚い上に上下巻から成る本を手取るのは躊躇しがちですが、思い切って読み始めたら必ず何かを得られる、そんな本です。携帯電話もスマホもなく、ガイドブックですらあったかという時代に、旅行会社との交渉から現地でのすべての判断をこなし、旅の中で人と交わっていく姿に触れれば、刺激を受けずにいられません。

○ロバート・アープ編『世界の名言名句 1001』(159ア)

6cmを超えるずっしりとした厚みの本に、世界中から集めた言葉が収められています。愛に迷っているときには「愛と人間関係」のカテゴリーから、先生方のおたよりの参考には「教育」のページから、力を分けてもらいたい気分ときには「スポーツ」のページを開けば、なにか新しい発見がありそうです。偉人達の解説もわかりやすく、写真も豊富で眺めているだけで豊かな知識が身に付いた気分になる本です。

○綾辻行人『Another』(913.6ア)

全673ページもある本ですが、面白すぎて一晩で読んじゃった!という生徒もいました。装丁も印象的な、ミステリー要素の強い学園ホラー小説で、漫画化、実写映画化、アニメ化、文庫化となった上に続編もあります。

📖 2023本屋大賞 決定! 📖

2023年本屋大賞が風良ゆう『汝、星のごとく』(913.6ナ)に決まりました。『流浪の月』で2020年の本屋大賞も受賞した風良ゆうの今回の作品は、主人公の男女が高校生から大人になるまでの人生をどう生きていくかが描かれています。瀬戸内の海の匂いまでもが感じられるような描写の美しさにも注目してみてください。



📖 多読の本のひみつ 📖

図書館の奥の、文庫コーナーの手前に「洋書」のコーナーがあります。こちらに英語の勉強法のひとつ、「多読」のための本がたくさんあります。15wordsほどで完結するやさしい絵本から始め、辞書は使わず少しずつ文字の多い本へと読み進めていくと、いつの間にか英語を読むことが苦ではなくなり、英文を読む感覚が身に付いてきます。かわいいイラストが人気の『Oxford Reading Tree (837H洋書)』というシリーズの本には「隠れアイテム」がひそかにちりばめられているという噂を聞き、探してみました。ひょんなところにメガネがあったり、犬の骨が少しずつ齧られて小さくなっていたり、フェンスから覗いている犬とおじさんが違う本にも現れたり。そんな小さな楽しみも見つけながら、英語が得意になったら嬉しいですね。

📖 Y校関係者の本 📖

この春までトレーニングルームでお世話になった藤井トレーナーがモデルとして載っている本が図書館に届きました。

松野慶之『ケガをせず動けるスポーツ選手をめざす 体づくりの教科書 —セルフチェックとエクササイズ—』大修館書店(780マ)です。表紙に始まり、中身の細かい動作の解説の写真、そして裏表紙にまで藤井さんが大活躍されています。ケガで苦しむスポーツ選手のために、不調の原因を見つけ出すためのセルフチェックのしかたや、その原因を解決するためのエクササイズなどが、的確な論理とともに掲載されています。痛みにくく動きやすい「使える身体」を作るためのヒントが、豊富なイラストや豊富な写真(藤井さん!)でわかりやすく紹介されています。スポーツをするすべての方におすすめしたい本です。



📖 今月のおすすめ本 📖

○ 金沢健児『阪神園芸 甲子園の神整備』(783.7カ 文庫)

Y校の校庭を、トンボを引いたバイクで走る先生を「なんて楽しそう!」と図書館から眺めていますが、あんがい大変なようです。そんなトンボかけのプロが存在することはうっすら知っていましたが、この本を見て、地味な裏方の仕事と思っていたトンボかけのプロ=グラウンドキーパーへの印象がガラリと変わりました。阪神の選手のエピソードも盛り込まれた内容は、トンボのかけ方やラインの引き方ひとつにもプロなりのコツがあること、チームで仕事をするという意味など、奥が深く、なにより「甲子園」という野球の聖地を整備する誇りが随所に感じられ、ちょっと感動して胸が熱くなるような場面もありました。グラウンドキーパーになるには野球経験は問われないそうなので、誰かに喜ばれる仕事を探している人は、ぜひ一度手に取ってみてください。

📖 横浜市立図書館から 📖

「横浜市の図書館の未来を語るワークショップ」が、市内4か所で6月に開催されます。横浜市民が居心地よく過ごせる場としての図書館の在り方について考え、ワークショップ形式で意見交換をします。図書館について熱い思いを持っている高校生の参加を絶賛募集とのこと。我こそは!という方は、5月25日(木)までに電子申請フォーム [申込ページ\(外部サイト\)](#) でお申し込みください。

Y校アーカイブ vol. 17 「絵はがき」

「Y校六十周年記念繪端書」は、昭和17年のY校60周年記念の際に、横濱市立横濱商業學校(Y校)と横濱市立横濱商業專門學校(Y専:現在の横浜市立大学)との連名で出された記念品です。

「初代校長美澤進先生の写真と校訓10則」、「昭和17年当時の校舎(南太田)」、「明治32年の校舎(北仲通六丁目)」の3枚の絵はがきが収められています。大きさは14cm×9cm、臙脂色と銀色でトリミングされたカバーも凝っています。



カバーの表に

Nov.1942 Memorial cards of the 60th Anniversary of Yokohama
Commercial College and Yokohama Commercial School.

美澤先生と校訓のカードには

Mr. Susumu Misawa, the Founder and the 1st principal of this school,
and his school instructions written in Dec.1887.

- 1,Honesty 2,Diligence 3,Exactitude 4,Precision 5,Regularity
- 6,Discrimination 7,Rapidity 8,self-restraint 9,Endurance 10,Carefulness

と英文に訳した文面の書き込みがあるものも数点あります。



また、Y校卒業生の南信一郎さんによる写真集『青いドームのある校舎』(376ミ)の美しい写真が10枚の葉書となっている「マルテン校舎のエハガキ」では、昭和61年(1986年)に建て替える前の校舎が見られます。青いドームは現在も螺旋階段の上にあります。以前の校舎ではマルテンと呼ばれて親しまれ、今より大きな存在感をもって重厚なレンガ造りの校舎の上に姿を見せていたようです。

